

基礎研 レター

5 類感染症になってからの マスク着用やアルコール消毒の状況

保険研究部 主任研究員 村松 容子
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

1—はじめに

新型コロナウイルスについて、感染症法上の取り扱いは、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」とされてきたが、2023年5月8日から「5類感染症」に位置づけられた。これにともない、法律に基づき行政が、人々の生活に対して様々な要請や関与をする仕組みから、個人の選択を尊重し、自主的な取組をベースとした対応に変わった。マスク着用についても、屋内では距離が確保できる場合や会話をほとんど行わない場合を除いて着用が推奨されてきたが、3月13日以降は個人の判断に委ねられることが厚労省から周知された。

こういった変化にともない、感染症対策の実施状況はどのように変化しただろうか。本稿では、ニッセイ基礎研究所が定期的に行っているアンケートを使って、マスク着用とアルコールによる手指消毒の実施状況がどの程度変わったか紹介する。

2—調査結果

1 | 使用したデータ

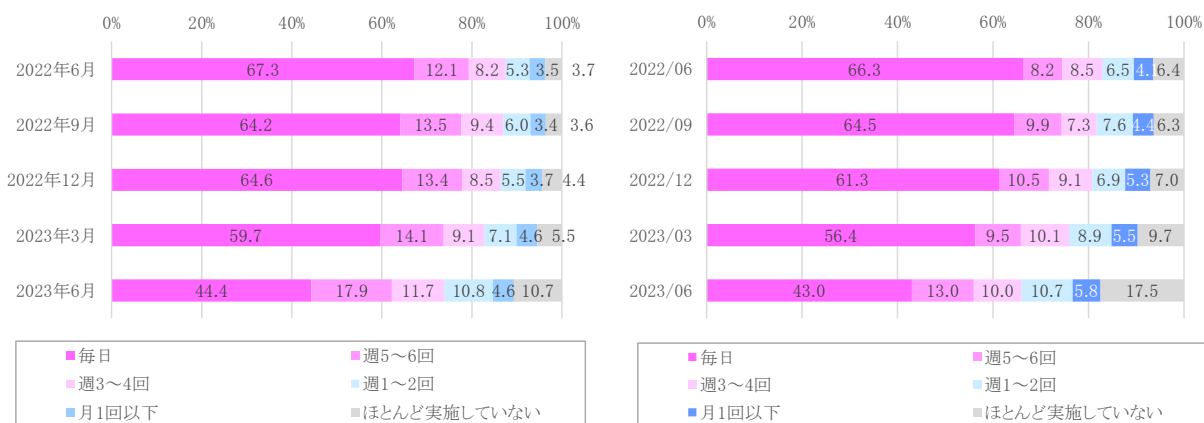
使用したデータはニッセイ基礎研究所による「[新型コロナによる暮らしの変化に関する調査](#)」の第9回～第12回調査の結果、および「生活に関する調査」の結果で、以下では、この1年間の感染対策の実施状況の変化をみる。

2 | 集計結果

この1年間におけるマスクの着用頻度、およびアルコールによる手指の消毒頻度の推移を図表1に示す。全体では、いずれも「毎日」実施している割合が2022年12月までは6割以上だったが、3月

に6割を下回り、6月の時点では4割強にまで低下した。ほとんど実施していない（「ほとんど利用していない」と「利用していない・該当しない」の合計）は、2023年6月の時点でマスク着用については1割程度、アルコールによる手指消毒については2割弱で、いずれも2023年3月と比べて大幅に上昇した。

図表1 マスク着用、アルコールによる手指の消毒実施状況



（資料）ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」の第9回、「生活に関する調査」

続いて、「毎日」と回答した割合を、性、年齢群団、就労状況、および不特定多数の人と接する場の利用頻度別にみた結果を図表2に示す。不特定多数の人と接する場の例として、本稿では、調査から取得できる「電車やバスでの移動」「スーパーでの買い物」の利用頻度を使った。電車やバスでの移動や、スーパーでの買い物は不特定多数の人と接する可能性があり、また、場合によっては混雑する可能性がある。

その結果、2023年6月のマスク着用については、男女差はないが、年齢では50~64歳が高かった。就労状況でみると、就労者で高かった。また、電車やバスといった公共交通機関での移動を週3回以上行う人で高かったほか、スーパーでの買い物をする頻度が高いほど高かった。就労者、および就労している中で年齢が高いと思われる50~64歳、公共交通機関やスーパー等多くの人と接する機会が多い人で毎日マスクを着用する傾向があったと考えられる。

2023年6月のアルコールによる手指消毒については、女性で高く、50~64歳だけでなく65歳以上でも高かった。マスクと同様に就労者の方が高かった。電車やバスでの移動頻度による大きな差はないが、スーパーでの買い物をを行う頻度が高い人ほど高かった。手指の消毒は、スーパー等店頭に設置されていることが多いことから、女性や65歳以上を含めて、買い物に行く機会が多い人で実施している傾向があったようだ。

2022年6月時点と比べると、図表1で示したとおり、マスク着用やアルコールによる手指の消毒は、2023年6月の時点で実施者が減っていたが、就労者、特に就労者の中では年齢が高い人や公共交通機関をよく利用する人でマスクを着用する割合が高く、女性や年齢が高い人やスーパーでの買い

物を行う頻度が高い人でアルコールによる手指の消毒を行う割合が高い傾向は続いていた。

図表2 マスク着用、アルコールによる手指の消毒を毎日実施している割合の変化

		2023年6月			2022年6月		
		N	マスク着用	手指消毒	N	マスク着用	手指消毒
全体		2,583	44.4	43.0 %	2,585	67.3	66.3 %
性別	男性	1,288	43.3	39.3-	1,287	68.6	61.8-
	女性	1,295	45.4	46.7+	1,298	66.0	70.8+
年齢	～34歳	480	32.1-	27.3-	511	56.8-	56.2-
	35～49歳	757	45.0	42.3	758	70.4+	66.4
	50～64歳	832	50.0+	49.5+	851	71.3+	70.7+
	65～74歳	514	45.7	48.2+	465	66.5	69.5
就労状況	就労	1,702	48.6+	44.4+	1,718	73.8+	69.4+
	非就労	881	36.2-	40.3-	867	54.4-	60.3-
電車やバスでの移動	週3回以上	518	49.2+	46.5	524	74.2+	69.7
	月1～週2回	540	42.4	41.7	598	65.2	63.5
	月1回以下	455	43.3	42.4	327	59.0-	59.6-
	ほとんど実施していない	1,070	43.5	42.2	1,136	67.6	68.2
スーパーでの買い物	週3回以上	889	53.4+	50.6+	843	75.7+	70.2+
	月1～週2回	1,496	41.4-	41.1-	1,513	65.8	67.5
	月1回以下	64	29.7-	29.7-	79	48.1-	46.8-
	ほとんど実施していない	134	23.9-	20.1-	150	45.3-	43.3-

(注) 全体と比べて差のある数値に± (有意水準5%)

(資料) ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」の第9回、「生活に関する調査」

3—おわりに

2023年3月に、マスク着用について個人の判断に委ねられることが厚労省から周知された。こういった変化にともなって、マスクの着用やアルコールによる手指の消毒等の感染対策を行っている割合は大幅に低下している。しかし2023年6月時点では、就労者、および就労している中で年齢が高いと思われる50～64歳、公共交通機関やスーパー等多くの人と接する機会が多い人で毎日マスクを着用する傾向や女性や年齢が高い人やスーパーでの買い物を行う頻度が高い人でアルコールによる手指の消毒を行う割合が高い傾向は続いていた。